

ちとせ

地域福祉ネットワーク通信

Together ～一緒に～

平成 28 年 3 月 発行

事務局：千歳市保健福祉部

福祉課総務係

☎ 24-0292

Fax 22-8851

平成 28 年 2 月 25 日（木）第 2 回ちとせ地域福祉ネットワーク会議を開催しました！

- テーマ：「生活困窮者の自立支援において、自分たちができる事や必要な社会資源について考える」
- 参加者： 青少年育成市民会議、民生委員児童委員連絡協議会、千歳いずみ学園、社会福祉協議会、千歳福祉会やまとの里、社会福祉協議会ほつとす、いずみ会北星病院、地域生活支援センターせらび、千歳リハビリテーション学院、優美居宅支援事業、元市民会議委員等、福祉分野の第一線で業務に従事している方や地域に密着した活動を行っている方など、地域福祉に関心のある方合計 28 名が参加されました。

○会議内容

生活困窮者自立支援制度と他自治体の取り組み事例について説明。（佐瀬生活支援係長）

生活困窮者自立支援制度について説明後、地域づくりの事例として釧路市の取り組みを紹介。

釧路市・厚岸町の基幹産業である漁業を下支えする漁網づくりでは、高齢化に伴い作り手が減少し業界の存続が危惧されています。製網作業は手間がかかるうえ、機械化が難しく、手作業に頼るしかない状況です。そこで釧路市では、引きこもりの状況などにより、すぐには一般就労が難しい方（収入が無く困窮状況の方が多）に対して、本格的な就労に向けた準備の一環として、「日常生活の自立や社会参加のために働く場所」（中間的就労の場所）を設け、製網作業を開始いたしました。地域のニーズと生活困窮を抱えながらも自立を目指す方々のニーズとを組み合わせ、新しい地域での支えあいの形を創設したのです。これは一つの例ですが、地域によっては、農業の担い手不足、荒れた山林の保全といった地域課題の解決に、更には高齢者の見守りや買い物支援など、増大する要介護ニーズへの対応と結びつけることも考えられるのではないのでしょうか。「支えられていた人」が「支える」側にまわる。お互いが支え合いながら豊かな地域を作り出すことが必要です。「既存の地域資源や人々のニーズを新たに結び付ける中で、新しい仕組みを創設する」これが今地域に求められていることなのです。

そこで、グループワークでは①思いつく既存の社会資源②新しい仕組みの創設の 2 点について活発な意見交換を実施し、たくさんのアイデアが生まれました。



各グループ毎に3点にまとめ発表をしました。

グループ	新しい仕組みの創設・アイデア
Aグループ	<ul style="list-style-type: none"> ・地域での買い物代行、経験者によるバスの代行運行など、希望の地への移動に貢献できる。 ・テレビ広告等を利用し、跡継ぎの無い個人事業などに市外、道外から後継者を募る。 ・町内会活動の中で、コミュニケーションを図る事が望ましい。
Bグループ	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の集う場所、居場所として「宅老所」が欲しい。 ・フードバンクの食料支援と、学用品、制服などの再利用など。 ・歩行困難者の「足」になって、買い物支援等につなげる。
Cグループ	<ul style="list-style-type: none"> ・生活困窮者と介護の担い手を結ぶ地域づくりの第一歩として、生活困窮者の予備軍を減らし、自分たちが手を差し伸べられる場、機会を作る。 ・しっかり食事を取れていない子どもが多いと聴くので、小学校の頃から教育（食、市民憲章など）を通して、健康の事、農業の事など高齢者とともに、町内会等で実施する。 ・行政の協力による空いているスペースを活用した安心して集える世代間交流の場を作る。
Dグループ	<ul style="list-style-type: none"> ・引きこもりなど、まずは地域ぐるみで外に出られる機会、場を作り、「顔」をみることから始める ・（ハローワークは敷居が高いと思っている）若者対象のハローワーク未満の情報交換や定期的ミーティングの場を設ける。 ・子育て中の方、高齢者が集える場所、癒しの場、寄り合いサロンなどを作る。
Eグループ	<ul style="list-style-type: none"> ・介護の資格取得する費用を支援し、雇用の促進と、介護施設の人材不足を解消につなげる。 ・シルバー人材センターの力を要する作業に若い世代を導入する。 ・（生活困窮者の働く場として）「道の駅」で地元の名産品の販売、接客などを通して地域の方、観光客との触れ合いの場を作っていく。



○まとめ

参加された皆様より、多くのアイデアをいただきました。その中では、フードバンクと子どもの食の問題などの結び付き、介護や子育てとの結びつきなど、参考になるものが多くありました。千歳市においても4月より社会福祉法人いずみ学園さんと連携し、中間的就労の前段階のステップとして、「生活困窮者就労準備支援事業」を実施する予定となっています。また、昨年8月より生活困窮世帯の中学生に対し、ボランティアの協力を得て学習支援事業を実施し、好評を得ております。

地域づくりは簡単なことではないのですが、「皆で集まり知恵を出し合うこと」このプロセスがとても大切であり有意義なことなのです。

☆今後も、ちとせ地域福祉ネットワーク会議を実施します。



会議でわかりあえる4つのこと！

- ☆地域の福祉の現状をわかって。 (地域の福祉の状況を共有します)
- ☆地域で困っている人のこと(福祉ニーズ)をわかって。 (地域にある福祉課題や求められる支援の情報を共有します)
- ☆地域の誰が何をしているのかをわかって。 (地域に関わる他職種の人が集まるのでお互いの顔、お互いの役割がわかり、より連携がとりやすくなります)
- ☆地域の住民ができることをわかって。 (福祉ニーズが広がる中で住民ができる助け合いの内容がわかります)